

俳句とスペインの詩人たち

田澤佳子 著

マチャード・ヒメネス・ロルカとカタルーニャの詩人

▶ A5判・352頁／定価：本体 5,000円（税別） ISBN978-4-7842-1823-3

2016年1月刊行

俳句はどんな形でスペイン語圏に伝わり、その詩にどんな影響を及ぼしたのか。

これまでの研究では、俳句はフランスなどでの広範な流行にかなり遅れて、断続的にスペインに入ったと考えられていた。だが、陸続きのヨーロッパでそのようなことはあり得ない——スペイン語とカタルーニャ語に精通し、現地の文化と風土を肌で感じてきた著者が、長詩を主流とするスペインの詩に俳句という究極の短詩がいかに受容されたかを、当時の文学書はもとより雑誌や新聞、詩人たちの日記や書簡などを渉猟して、こまやかに読み解く。



◆内容目次◆

序章 バスの功罪

第一章 俳句受容の玄関口——パリとロンドン——

一 パリのスペイン詩人たち

雑誌『メルキュール・ド・フランス』とファン・ラモン・ヒメネス／カタルーニャの先駆者ジュゼップ・カルネーとアウジェニ・ドルス／ディエス＝カネドと荒木田守武の句／エンリケ・ゴメス・カリージョの「詩の心」／アントニオ・マチャードの三行詩／パリにおけるスペイン語詩人のネットワーク

二 ロンドンとスペイン詩人

アストンの『日本文学史』と『ラ・エスパーニャ・モデルナ』／ファン・ラモン・ヒメネスと『ザ・ポエトリー・レビュー』

第二章 スペインの三大詩人と俳句

——マチャード、ヒメネス、ロルカ——

一 アントニオ・マチャード——新しい詩を求めて——

「日本の詩人」アントニオ・マチャード／「ロマンセ」の故郷からパリ、そしてマドリッドへ／『孤独』から『孤独、回廊、その他の詩』へ——俳句が生んだ変貌——『カスティリャの野』——風景描写の発見——『新しい歌』——新しい詩の手掛かりを求めて——

二 ファン・ラモン・ヒメネス——俳句と「裸の詩」——

詩人の原点——セビリャの「アテネオ」——発信者ヒメネス／強まる俳句性／クラウゼ哲学、自由教育学院との出会い／『牧歌集』の「見立て」／掃蕩——『プラテロと私』——「学生寮」——セノビアとの出会い——『新婚の詩人の日記』——「裸の詩」の始まり——より俳句的に——『永遠』と『石と空』——その後のヒメネスと俳句／栄光と終焉

三 フェデリコ・ガルシア・ロルカ——俳句をめぐる葛藤——

詩人の出発点／ミゲル・ピサロ／「騎乗の歌」／「騎乗の歌」以前／俳句と三つの詩集／ロルカの俳句観／「学生寮」入寮後の展開／実りと突然の終焉

第三章 俳句伝播の拠点「学生寮」

- 一 知の最前線としての学生寮
- 二 学生寮の母体——「自由教育学院」——
- 三 俳句と学生寮周辺の人々

「特別寮生」ファン・ラモン・ヒメネス／ロルカと「アナグリフォ」遊び／マチャード一家と「自由教育学院」／「特別寮生」ホセ・モレノ・ピリャ／エンリケ・ディエス＝カネド／遅咲きの詩人ホルヘ・ギリエン／若い世代と俳句——エミリオ・ブラドス——「接着剤」としてのマヌエル・アルトラギレ／「農村詩人」ホセ・マリア・イノホサ／そのほかの学生寮周辺の人々

第四章 「ウルトラリスモ」と「グレゲリア」の役割

- 一 「ウルトラリスモ」とは
- 二 「ウルトラリスモ」と俳句
ウルトラリスモ詩人ギリエルモ・デ・トーレ／アントニオ・エスピナの「版画」／フランシスコ・ピギの「僕の初めてのハイカイ」／アドリアノ・デル・パリエの「七色のハイカイ」／「ウルトラリスモ」の雑誌と俳句
- 三 ラモン・ゴメス・デ・ラ・セルナと「グレゲリア」

「グレゲリア」——革新的短詩——イマジズムとグレゲリア

第五章 カタルーニャの詩人・文化人と俳句

- 一 カタルーニャ語の位置づけ
- 二 ハイカイの紹介者ジュゼップ・カルネー
- 三 アウジェニ・ドルスの役割
- 四 ジュゼップ・マリア・ジュノイと「ハイカイ」
- 五 カタルーニャの国民的詩人ジュアン・サルバット＝パパスアット

たざわ・よしこ…大手前大学大学院比較文化研究科比較文化専攻博士課程後期単位取得退学。文学博士。大阪大学・関西大学講師。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)			
冊数	冊	俳句とスペインの詩人たち	本体5,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1823-3			
お名前			tel	本書HPのQRコード			
ご住所	〒		e-mail				
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎						
QRコード							

俳句とジャポニスム メキシコ詩人タブラーダの場合

太田靖子著

90年前にスペイン語でハイクを書いていた詩人、ホセ・ファン・タブラーダ。彼がいかにして日本の俳句を知り、ハイクを創作するに至ったかを明らかにし、日本の俳句の本質へ如何に接近したか、その評価を試みる。俳句をスペイン語圏に広めた第一人者でありながらも、いまだに研究の乏しいタブラーダのハイク作品に光を当てる一書。

▶A5判・328頁／本体5,800円

ISBN978-4-7842-1404-4

翻訳文学の視界 近現代日本文化の変容と翻訳

井上健編

直訳と意訳、翻訳者の役割、原作者の言語意識……。言語が自国文化と深く関わる以上、翻訳文学はつねに複雑な要素をはらむ。最前線で活躍中の研究者たちが、比較文学・比較文化研究の立場から翻訳文学の諸相を語り可能性を探る。

▶A5判・300頁／本体2,500円

ISBN978-4-7842-1600-0

谷崎潤一郎と世紀末 大手前大学比較文化研究叢書1

松村昌家編

大手前大学で行われた日本比較文学学会全国大会のシンポジウムをもとに海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。谷崎が世紀末のデカダンスの洗礼を受けたとされるノルダウの「世紀末」とクラフト＝エービングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。

▶A5判・212頁／本体2,800円

ISBN4-7842-1104-7

※ヴィクトリア朝英国と東アジア 大手前大学比較文化研究叢書3

川本皓嗣・松村昌家編

近代化過程における日本・中国・朝鮮と英国との文化交流誌。
【目次】ムスメに魅せられた人々/交差する両洋の眼差し/福沢諭吉におけるW・バジョット問題/ミルのOn Libertyは明治日本と清末中国でどのように読まれたか/キプリングと日本/『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』の東アジア など

▶A5判・280頁／本体3,200円

ISBN4-7842-1297-3

阪神文化論 大手前大学比較文化研究叢書5

川本皓嗣・松村昌家編

歌枕に詠まれたいにしへの芦屋の浜、歌人や作家に愛され、その作品に影響を与えてきた芦屋・西宮など阪神間の風土、さらに開港早々慌ただしい歴史の舞台ともなった神戸——文学、歴史から阪神文化の神髄に触れる。【目次】歌枕の詩学/松瀬青々論/昭和初期の神戸における青年団運動について/A・B・ミットフォードと神戸事件 ほか

▶A5判・290頁／本体3,200円

ISBN978-4-7842-1398-6

比較詩学と文化の翻訳 大手前大学比較文化研究叢書8

川本皓嗣・上垣外憲一編

国際比較文学学会（ICLA）会長であった故アール・マイナー氏の追悼と、同じくICLA会長を務めた川本皓嗣大手前大学前学長の退職を祝うため、各国から集った研究者の共同論集。詩歌の翻訳から民謡、仏教、獅子舞、ベルシヤの涙壺まで、比較文化と翻訳にまつわる事象を様々に論じる。

▶A5判・286頁／本体2,500円

ISBN978-4-7842-1637-6

日仏文学・美術の交流 大手前大学比較文化研究叢書10

石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編 「トロンコワ・コレクション」とその周辺

明治27年(1894)から明治43年(1910)にかけて日本に滞在、多くの和画や美術品を蒐集、研究したE・トロンコワのパリ国立高等美術学校所蔵コレクションを柱に、日仏美術の交感を論じた7篇を日仏両言語で収録。カラーを含む図版を多数掲載。

▶A5判・284頁／本体2,800円

ISBN978-4-7842-1745-8

ジャポニスム入門

ジャポニスム学会編

本書ではこれまであまり紹介されなかった地域も含め各国別の個性的な展開をやさしく読み解き、さらに建築、音楽、写真、モードという絵画・工芸以外の分野におけるジャポニスムをも射程に入れ、ジャポニスムの全体像に迫ろうとした。ジャポニスム学会20周年記念出版。

▶A5判・292頁／本体2,800円

ISBN4-7842-1053-9

響きあう東西文化 マラルメの光芒、フェノロサの反影

宗像衣子著

19世紀フランス象徴主義の巨匠・詩人ステファヌ・マラルメ(1842-1898)について文学的考察を起点に進められた諸芸術(美術・音楽)の相関的研究から、アーネスト・フェノロサ(1853-1908)との東西芸術文化の交流諸相をまとめる。

▶A5判・394頁／本体5,400円

ISBN978-4-7842-1814-1

万国博覧会と人間の歴史

佐野真由子編

近代以降の人間社会のあゆみを語る上で決して見過ごすことのできない対象＝万国博覧会。本書は多様な領域の研究者のほか、万博をつくり、支える立場の政府関係者、業界関係者が集い、さらにアジア各国の研究者を迎えて、ともに議論を重ねた共同研究の成果。

▶A5判・758頁／本体9,200円

ISBN978-4-7842-1819-6

※視覚芸術の比較文化 大手前大学比較文化研究叢書2

武田恒夫・辻成史・松村昌家編

源氏物語からラファエル前派まで、日欧の古代から現代までの文学テキストと絵画・工芸などの関わりを、まるで謎解きのように縋っていく。文学と視覚芸術の交差点。【内容】物語絵から物語図へ/文芸を着る/むさしの、そして『武蔵野』まで/ゴッカン作『テ・ハーンの肖像』に描かれた書物/マンチェスター美術名宝博覧会 など

▶A5判・256頁／本体2,800円

ISBN4-7842-1187-X

夏目漱石における東と西 大手前大学比較文化研究叢書4

松村昌家編

明治の文豪・夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋的概念と東洋的概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事物の受容の様相など、気鋭の研究者たちによる漱石文学論。

【内容】小説美学としての『吾輩は猫である』におけるメラニコリーと神経衰弱/奇人たちの饗宴/漱石の薔薇戦争 など

▶A5判・208頁／本体2,800円

ISBN978-4-7842-1335-1

※一九二〇年代東アジアの文化交流Ⅰ・Ⅱ

川本皓嗣・上垣外憲一編 大手前大学比較文化研究叢書6・7

明治期の交流にくらべて研究の事例も少なく、未開拓の部分も多い1920年代の東アジア文化交流の様相を、当該各国の研究者を結集することによって明らかにする。

【Ⅰ】▶A5判・232頁／本体2,800円

ISBN978-4-7842-1508-9

【Ⅱ】▶A5判・274頁／本体2,500円

ISBN978-4-7842-1584-3

一九三〇年代東アジアの文化交流

上垣外憲一編 大手前大学比較文化研究叢書9

未開拓部分が多い1930年代の東アジアの文化交流。当該各国の研究者を結集してその様相を解明する。世界恐慌のため鎖国経済化が進み、東アジアでは、満洲事変を皮切りに世界大戦へと発展する時代。戦争の影で見落とされがちな当時の文化交流を様々な視点から論じる。

▶A5判・258頁／本体2,800円

ISBN978-4-7842-1687-1

日仏マンガの交流 大手前大学比較文化研究叢書11

石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編 ヒストリー・アダプテーション・クリエイション

日仏両国および海外のマンガ/バンド・デシネ文化について、各国の特質と相互の交流を、特徴・受容・翻訳などの視点から考察する。【内容】物語マンガの発展/アジアにおけるマンガの特徴と現状/日本マンガの現状と特徴/フランス漫画の原点/バンド・デシネの遺伝子とその進化論/開かれた輪郭 など

▶A5判・286頁／本体2,800円

ISBN978-4-7842-1802-8

※滅びと異郷の比較文化

日本比較文学会編

第一線で活躍する比較文化研究者が「滅び」と「異郷」のヴィジョンを東西の文学・文化・美術に探る。

【目次】Ⅰ 滅びのヴィジョン/滅びとエロス・滅びと再生 Ⅱ 異郷のヴィジョン/遙かなる異郷・訪れた異郷・見出された異郷

▶A5判・516頁／本体14,000円

ISBN4-7842-0821-6